

令和元年度 第1回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会
会議概要

開催日時	令和元年7月30日（火）午前10時00分～午後0時00分
会 場	新潟市役所本館3階 対策室1
出席委員	小池委員、斎藤委員、椎谷委員、志賀委員（出席4名、欠席1名）
事務局等出席者	保育課長ほか同課より6名、株式会社ジャパン総合研究所職員2名 こども政策課職員1名
傍聴者	2名
議事内容	<p>【議事】</p> <p>（1） 第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画にかかる量の見込み及び方向性について</p> <p>○事務局より対象となる事業の概要、取り組み状況、現状・課題、今後の方向性、量の見込み算出の考え方について説明を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <p><教育・保育の量の見込み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の廃園により、秋葉区の令和5年度の定員が800から600台になっているが、保育の2号の人数は変わらずこの人数になるのか。→あくまでも定員。量のニーズは、人口減に合わせて減っていくこととなる。 ・認定こども園の幼稚園枠は変わらないか。幼稚園が無くなった分、認定こども園の幼稚園枠に入ろうと思っても少なく、待機児童が出るということはあるか。 →秋葉区の2号の枠については、今現在余っている。幼稚園の1号で入れなかった人達のために、認定こども園の幼稚園枠を増やしていかなくてはならないが、現状ではこのようになっている。 ・公立保育園の再編計画が前提の数字ということか。→そこまでは加味されていない。 ・これからの考え方としては、フルスペックの認定こども園は必要ないという考え方か。 →場所とタイミングによる。 ・総論的にフルスペックの認定こども園は必要なく、1・2歳児に特化した小規模保育を、1号で余っている場所を使ってやっていくのがベターという考え方か。 →そのとおり。29年度から小規模保育事業を増やしている。 ・予算的なこともあると思うが、今の条件をみるとフルスペックは必要ないと感じる。小規模を増やしていくというのは素晴らしいことだと

思うが、接続（出るときの受け入れ）を、ある程度きちっとしていかないと、受け入れの方でトラブルが生じてくるのではないか。

→小規模保育事業が制度として出来上がった時に、連携園を必ず作りなさいという国からの指示になっており、27年からの5年間で、今後については、連携がないものについてはやっていけないことになっている。受け入れ側の体制をしっかりとしていかなければいけないと思っている。

- ・区ごとでも結構ばらつきがあるので、一概に言えないこともあるが、量の見込みとしては、市全体の傾向を記載するということに止めないと、ということもあると思うのでその中で見て頂ければと思う。
- ・0歳児は、最近は4月入園される人も多くなってきている。1歳過ぎから2歳までの間という人が増えてくると、1・2歳児の利用者が多くなるというのはあると思う。
- ・0歳まではご家庭で、1歳になってくると預けましょうという形になってきているは、社会の保障が出来てきている感じがする。
- ・園だけで守るのではなくて、社会みんなで子育てをしようという仕組みは大事。
- ・数字だけ見れば入れるところはあるが希望されているところには入れるか分からない。

→補足だが、1歳、2歳の利用数と定員の中で、今現在も足りていない数字になっているが、現実的には定員を超えた受け入れで対応している。

・3号が足りていない状況だが、この人達はどこかにいるということか。

→そのとおり。

・待機児童は出ていないということか。

→そのとおり。

・数字と確保の方策の方向性（案）の文言について、確認した。

<幼稚園の預かり保育事業>

・幼稚園教師確保とは、具体的にどうやって確保していく見通しか。

→今年予算の中で、幼稚園教師や保育士確保の予算要求をするため民間事業者意見頂く準備をしている。

<保育施設等での一時預かり事業>

・ニーズに合わせた対応がどこまで出来ているのかは、今回の調査では把握しきれない。リフレッシュ等の活用がどこまで使えているのか心配なところではあるので、個人的には、その他の特記事項に考えて記載をして頂きたい。

・その他の2点目の記述で、拠点への必要性については検討を行うというのは、どういう趣旨か説明してほしい。

→一時預かりよりも入園にシフトしている現状があるので、拠点も一時預かりよりも常時預かるお子さんを、保育室の最大限まではお預かり

したいと希望もあった。拠点を今後増やしていくか、新しい施設が出来たときに、一時預かりをメインにするのか、元々の定員の方を増やすのかということもあるので検討事項にしている。

リフレッシュを使いたくても、使えていない現状があるかもしれないが、常時保育が必要な人が優先となっている。

- ・そこを確保しつつ、一時預かり・リフレッシュ系を、どこでどう組み立ててやっていくのか。保育園の機能をプラスアルファでやっていくのが良いのか。支援の場のプラスアルファでやっていくのか。少し見直していかなければいけないと思う。

保育施設が、常時保育が必要な人達を中心にやっていくのは問題ないと思うが、使えていない人達をどこで受け入れていくのかというのは、新たな課題だと思う。

→中央区でやっている「子育て応援ひろば」は、リフレッシュも出来るし、買い物も出来るということで、非常に良い施設だと思っている。

- ・ああいう形で作ると、事業目的に近い人達が使いやすくなると思う。
- ・お母さん達のリフレッシュもそうだし、医者に行く、保育園の遠足に下の子を連れて行けないなど様々な理由があるが、保育園が難しいのであれば、民間も必要になってくると思う。
- ・入学式や卒園式、遠足などが、重なったときに、預けたいときに預けられる環境になっていったら欲しい。
- ・一時預かり事業については、これまでの実績値に合わせて見込みの数字を出していくということと、その他の特記事項を示すということによい。

<時間外保育事業>

- ・既に新潟市内全園でやっており、量の確保としては伸びている。これは全園で引き続き実施ということになるかと思うが、新潟市で時間外保育を一番多くしているところは何時間か。

→夜間保育施設が市民病院前に1園ありますが、夜の1時半までやっている。

- ・フルで夜空いている所はないのか。

→一昨年、24時間保育している所がやめた。遅くても7時半とか8時ぐらいまで。

(2) 令和元年度新設等を予定する特定教育・保育施設等について

○事務局より、令和元年度に新設等を予定している施設と認定こども園への移行施設、令和2年度に保育所等施設整備要望一覧について説明を行いました。

(3) その他

○幼児教育・保育の無償化にかかる状況等について、事務局より説明を行いました。